

子宮頸がんを予防するには？

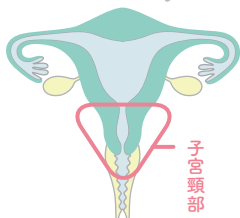
みんなに関係のある、子宮頸がん

子宮頸部という子宮の入口に近い部分にできるがんです。日本では毎年1,1万人の女性が子宮頸がんと診断され、さらに毎年2,900人の女性が亡くなっています。20歳代から増え始めて、30歳代までにがんの治療で子宮を失ってしまう人も、年間約1,000人います。

子宮頸がんは予防のできるがんです

子宮頸がんは主に HPV(ヒトパピローマウイルス)への感染が原因で発症します。HPV ワクチンの接種で感染を防ぎ、定期的な検診を受けることで子宮頸がんを予防することができます。このウイルスは一度でも性的接触の経験があれば、男女共に誰でも感染する可能性があります。女性だけでなく、男性にも HPV によるがん発症のリスクがあります。

20代～30代にも多く、
誰にでも罹る
可能性のあるがん



検診は専用の器具で優しく頸部の細胞を採取します。数分で終わる簡単なものです。

ワクチン接種 + 20歳になったら2年に1度の定期検診

検診は健康で自覚症状の無い時に受けるものです。特にセクシャルデビュー後の女性は検診も受けていただきたいのです。子宮頸がんは初期段階で自覚症状はありません。何か気になる症状があれば2年以内でも必ず受診しましょう。

どんなワクチンがありますか？

現在日本で公費接種可能なワクチンは3種類あります。2価・4価・9価ワクチンで、それぞれ予防可能なウイルスの型に違いがあり予防効果にも差があります。

HPVウイルスは200種類を超える型があると言われており、子宮頸がんの発症と関係が深いハイリスク型を、これら3種類のワクチンで感染予防が可能です。

※接種するワクチンや年齢によって、接種のタイミングや回数が異なります

9価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を88.3% 予防

▶ 9価ワクチン / シルガード9

HPV16型・18型・6型・11型・31型・33型・45型・52型・58型の予防

2価・4価は子宮頸がんの原因となる
ウイルスの感染を65.4% 予防

▶ 2価ワクチン / サーバリックス

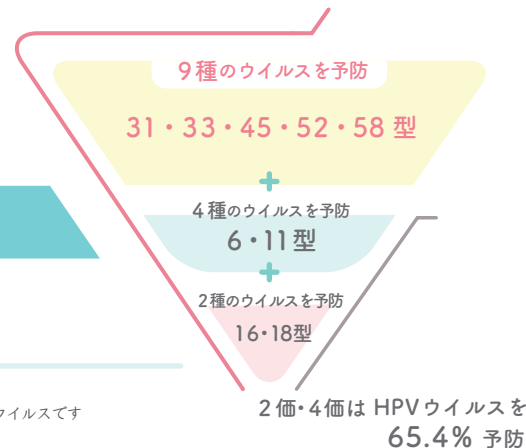
HPV16型・18型の予防

▶ 4価ワクチン / ガーダシル

HPV16型・18型・6型・11型の予防

※6・11型は、主に尖圭コンジローマという性感染症の原因となるウイルスです

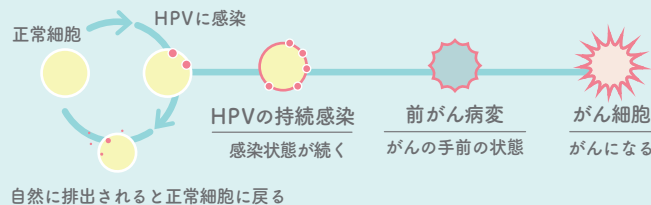
9価は HPVウイルスを 88.3% 予防



“感染＝がん”ではなく、
検診で早期に発見すれば
治療が可能です

ワクチンを接種していても検診は必要ですか？

HPVワクチンの種類で差がありますが、接種によって60～90%の感染を防ぐことができます。ただし100%ではないため、接種の有無に関係なく定期検診が必要です。



HPVはありふれたウイルスです。多くの人が一生に一度は感染するといわれています。感染しても多くは自然に排出されますが、一部の人で持続感染を続ける場合があり、更にその一部はがんへと進行します。

子宮頸がん検診はどこで受けられますか？

地域の医療機関（婦人科・産婦人科）で受けられます。

検診では、既に「がんにかかっているか」だけでなく、「がんになりそう」な状態かどうか確認できます。

早期に発見すれば治療が可能です。